

令和4年度 第二回酒田市ボランティア・公益活動推進委員会 会議録

日 時：令和4年10月14日（金）14：00～16：30

場 所：酒田市地域福祉センター

1 開 会

2 あいさつ 澤邊会長

3 協議事項

- (1) 令和5年度酒田市公益活動団体協働提案負担金事業の採択について
事務局より、制度概要、採点基準、審査の流れについて説明。

各提案事業の審査を実施。

(事業説明・審査)

- (2) 公益活動推進アクションプラン 次期アクションプラン策定について
事務局より説明

(質問・意見等)

委 員：資料8-2の総合計画（後期計画）の施策3 地域共創コーディネーター人材バンク（仮称）が関わった取り組み数の目標が5年間で25件となっているが、いつからの目標なのか。また、施策4の、ボランティア・市民活動に参加した市民の割合についてR3年度で19.5%だったものをR9年度で40%にするのは可能なのか。

事務局：施策3について、この目標は総合計画の後期計画の成果指標と合せているもの。総合計画後期計画がR5年度からとなっているので、施策3もR5年度から5年間の目標数値となる。施策4について、目標なので高い数値となっているが、実際携わっているみなさまや活動を市民のみなさまへ周知をしながら広げていきたいと考えている。

委 員：施策4について、酒田に10万人いれば4万人が市民活動に参加するということになるのか。

事務局：施策4について、H29年度だと27.3%だった。R5年度までに10%アップを考えていたが、実際R3年度は19.5%と下がっている。また、このアンケートは全市民を対象としておらず無作為抽出（2～3千人）で出た数値。

委員：団体登録数について、新型コロナウイルスのことがあり、実質事業を行わないという団体や、役目が終わった団体もあるのでは。団体の登録数を確保したいがために、そのままにしているのはもったいないかと思う。活動している、生きている団体をチェックして欲しい。おたよりも送ってもらっているが、団体を整理しないと無駄になるのでは。登録数に左右されず、生きている団体を見極め、増やしていくことが大事かと思う。

会長：総合計画策定時にもあるべき議論だったと思う。今はwithコロナなので前と同じにはできない。数値ではない大事なところをこの委員会で確認できた。総合計画を今から変えるのは難しいと思うが、こういう意見もあったことを伝えていただければ。

委員：言葉の使い方について。資料8 公益活動推進のための基本方針の基本的な施策に「数値目標」とある。総合計画では「成果指標」という言葉を使っている。資料8-2にいくと、「目標」となっている。どういう使い分けなのか。

事務局：市の事業は一定の成果を求められるので、総合計画の中では「成果指標」という言葉を使っている。我々が個別の事業を行う場合も「成果指標」「数値目標」といろいろな言葉を使っているが、特に明確な使い分けはしていない。

委員：「成果指標」という言い方と「数値目標」は違うのではないかと思う。「成果指標」はその施策を代表する目標。「数値目標」はその施策の1つの目標。「数値目標」がいいからその施策が全ていいという判断にはいたらないようなものが「数値目標」。「成果指標」は大きな目標なので、これがうまくいっていないければ、その施策の基本的なところがうまくいっていないと捉えられると思うが、そうではないのか。

事務局：言葉の使い分けについてこちらも十分に理解していないところもあるが、一定の成果をあげなければならないという思いはある。この場では明確な説明を申し上げられず申し訳ない。

委員：来年度あたりに整理していただければと思う。

事務局：指標には「成果指標」と「活動指標」があり、様々な活動をした結果、成果に達成するというようなものになろうかと思う。今回のアクションプランの数値目標については、「成果指標」なのか「活動指標」なのか、前回の策定の際にあまり意識されずにつくられていたという反省もあるので、整理していきたい。総合計画に記載はないが「成果指標」の下に「活動指標」があるというつくりになっている。

4 その他

特になし

5 閉会